

令和8年度第1回大気環境改善検討会

令和8年8月21日(金曜日)13:00～

会議次第

- 大気環境改善検討会について （資料 1）
- 令和 7 年度第 1 回検討会の振り返りについて （資料 2）
- 議題
 - （1）大気汚染物質排出インベントリの作成について （資料 3）
 - （2）将来濃度推計に向けたシミュレーションについて （資料 4）
 - （3）大気環境改善に向けた取組について （資料 5）
 - （4）その他 （資料 6）

大気環境改善検討会について

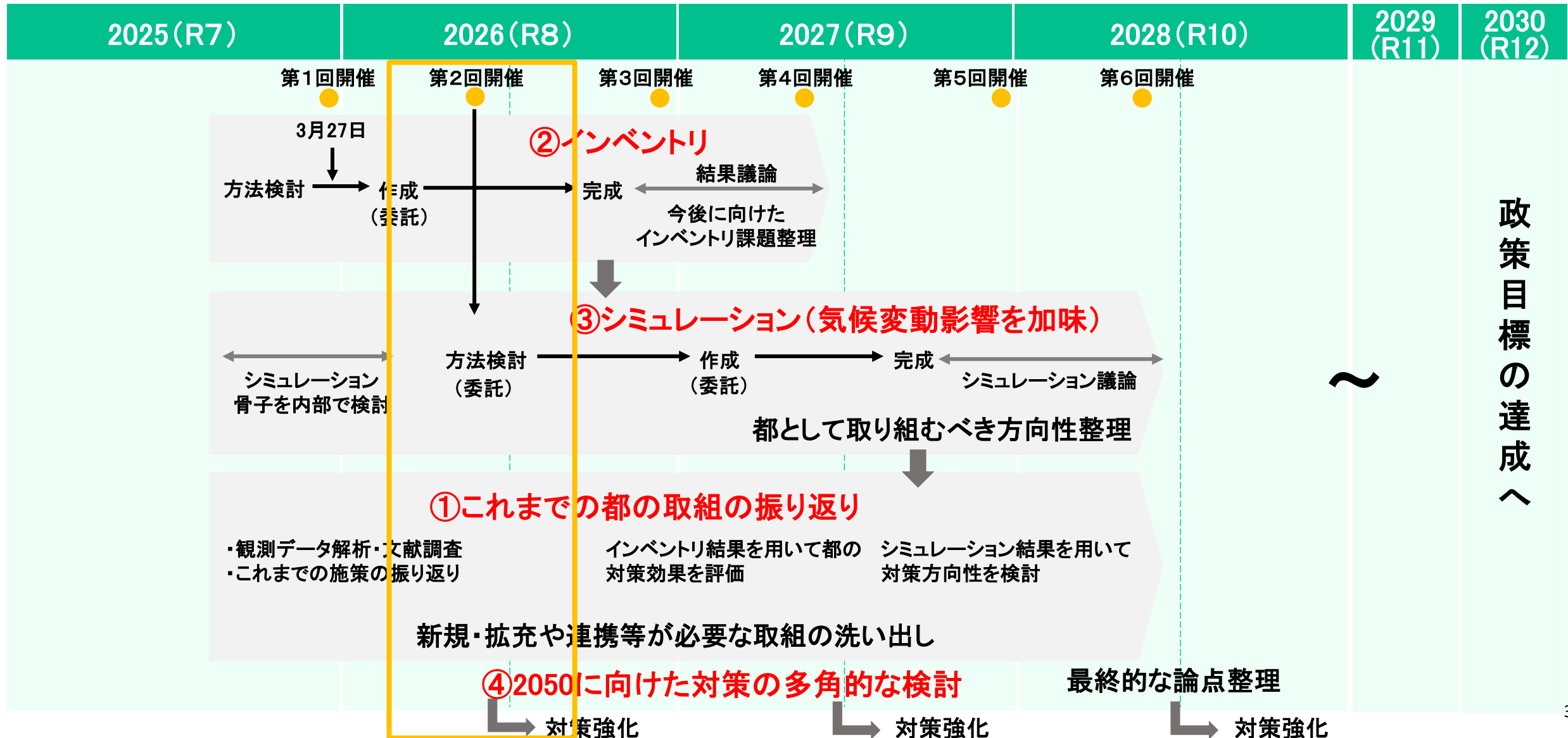
検討会開催の目的及び検討内容

- 都は、これまで、工場や自動車から排出される大気汚染物質を大幅に削減
- 大気環境が大幅に改善された今、なお残る課題として、OxやPM2.5の削減が急務
- 気候変動が大気環境へ与える影響を踏まえ、将来を見据えた対策を検討

本検討会における検討内容

- ①これまでの都の取組の振り返り
- ②5年ごとに実施している都内排出インベントリの実施・評価
- ③気候変動を踏まえた大気環境シミュレーションの実施・評価
- ④2050に向けた対策の多角的な検討

検討会スケジュール



令和7年度第1回検討会の振り返りについて

令和7年度第1回検討会の振り返り

■都の大気環境及び取組について

- 国ではオキシダントの環境基準が改正され、長期基準が導入された。今後長期基準についてどう考えるかを注意して取組む必要がある（茶谷委員）
- 大規模煙源でばいじんが近年微増している要因について、今後も注視いただきたい（森川委員）
- PM対策を考えていく上で、（気候変動対策としてなど）産業利用の用途拡大の可能性もあるためアンモニアの観測も重要である（熊谷委員）
- 削減が進んでいない固定発生源について、より細分化した実態把握が必要である（花岡委員）
- NO_x・VOCの低減とオゾン濃度の変化について、環境科学研究所とも連携をして進めていくと良い（熊谷委員）
- NO_xの健康影響も含め検討いただきたい（上田委員）

令和7年度第1回検討会の振り返り

■ 次年度作成の大気汚染物質排出インベントリについて

○どこに注力するのかという視点で、国と都のインベントリの違いについて比較整理いただきたい
(速水委員)

○都内のオキシダント生成はVOC依存であるため、自然発生源も重要。都市部の植物起源VOC (BVOC) をどう表現するかは難しい課題だが取り組んでもらいたい (茶谷委員、畠山委員)

○PM・VOC・NOxのほかに、アンモニアも発生源側把握の対象物質に追加してはどうか(森川委員)

○NOxが減少し、週末にオキシダントが上昇するウィークエンドエフェクトを説明できるよう、平日と休日の排出量の違いがわかるとよい (森川委員)

○VOCに関して、有害大気汚染物質に該当するものもあることから、そういった観点も含めたインベントリを作成するとよい (熊谷委員)

○業界細分化は、VOCだけでなく、NOx、PMも合わせてできるとよい (花岡委員)

○VOCに関して東京都独自に様々な取組・支援をしている。独自対策が排出量にどのような効果があったのか排出インベントリの中で評価できるとよい (熊谷委員)

令和7年度第1回検討会の振り返り

■ 将来の都内大気環境に影響を及ぼす外部要因について

【将来の大気環境】

- 大気汚染の健康影響があることを前提に、大気汚染や気候変動による健康影響の定量的な評価をもとに政策の優先順位を決めていくと良い（上田委員）
- ヒートアイランド、都市構造の変化、電気自動車の普及等、将来への影響を分析をしていくと、日本の他の都市に対する示唆にも非常に有効である（花岡委員）
- 関東地方のオキシダントを考えるには、関東地域内の風の吹き方がどう変化していくのかという点に注目していく必要がある（熊谷委員）

令和7年度第1回検討会の振り返り

■ 将来の都内大気環境に影響を及ぼす外部要因について

【情報発信】

- VOC対策の認知度向上に向けて、普及啓発事業に力を入れたい（速水委員）
- 健康のリスクコミュニケーションの仕方に注意しながらも、情報発信を進めていく必要がある（花岡 委員）
- 市民が大気汚染の重要性を認識し、取り組んでいくことが重要である。どのように周知していくのかを検討した上で、ローコストセンサーのようなツールを活用していくことが重要になる（茶谷委員）
- ローコストセンサーの活用にあたっては、精度、信頼度の十分な精査、盗難やいたずらへの注意をしつつ、検討をすすめると良い（畠山委員、熊谷委員、茶谷委員）
- 東京都が国外の大都市に働きかけ、大気汚染の緩和に関わっていくことで、東京都の将来の環境改善にも繋がると考える（速水委員）
- 日本国内の消費が、他国の大気質に影響している可能性もあるといった視点も念頭に、普及啓発を進めていくと良い（上田委員）

大気汚染物質排出インベントリの作成について

主な委員意見と対応

■ インベントリ作成項目について

No.	委員からの意見	都の対応（反映内容・対応方針）
1	（どこに注力するのかという視点で）国と都のインベントリの違いについて比較整理いただきたい（速水委員）	BVOC 放出量予測モデル（MEGAN）を用いて推計を実施予定（次頁参照）
2	都内のオキシダント生成はVOC依存であるため、自然発生源も重要。 <u>都市部の植物起源VOC（BVOC）をどう表現するかは難しい課題だが取り組んでもらいたい</u> （茶谷委員、畠山委員）	
3	PM・VOC・NOxのほかに、 <u>アンモニアも発生源側把握の対象物質に追加してはどうか</u> （森川委員）	従来から移動発生源、大規模固定発生源等を対象にアンモニア排出量推計を実施、今年度も算出予定
4	PMは粒子状物質として算出するのか、それとも <u>その中の成分も含めてインベントリは作成されるのか</u> （熊谷委員）	排出源ごとに元素状炭素（EC）、有機炭素（OC）、その他成分等を分類して内訳を推計予定

大気汚染物質排出量算定対象（都・国）の比較

■ 国と都の大気汚染物質排出インベントリ

- ・ 国は3年ごとに、東京都は5年ごとに作成（総量に加えてメッシュレベルの排出量）
- ・ 大部分は共通であるが、都は船舶、鉄道、植物も推計対象としている

区分		東京都（2020年度版）	国（2021年度版）
推計対象		NOx・PM2.5・VOC・NH3等	NOx・PM2.5・VOC・NH3等
発生源	移動発生源	自動車、二輪車、建設機械、航空機、 船舶 、 鉄道 等	自動車、二輪車、建設機械、航空機、 船舶 ※ ※外部のデータを総量のみ参照
	固定発生源	工場、民生、粉じん発生施設、焼却炉等	工場、民生、粉じん発生施設、焼却炉等
	VOC発生源	溶剤使用、燃料蒸発、化学品製造等	溶剤使用、燃料蒸発、化学品製造等
	アンモニア発生源	畜産、肥料、浄化槽、人の発汗、ペット	畜産、肥料、浄化槽、人の発汗、ペット
	生活起源	たばこ、生活用品、調理、野焼き	たばこ、生活用品、調理、野焼き
	自然起源	植物 、火山	土壌 、火山 ※植物は2012、2015年度に総量のみ算出

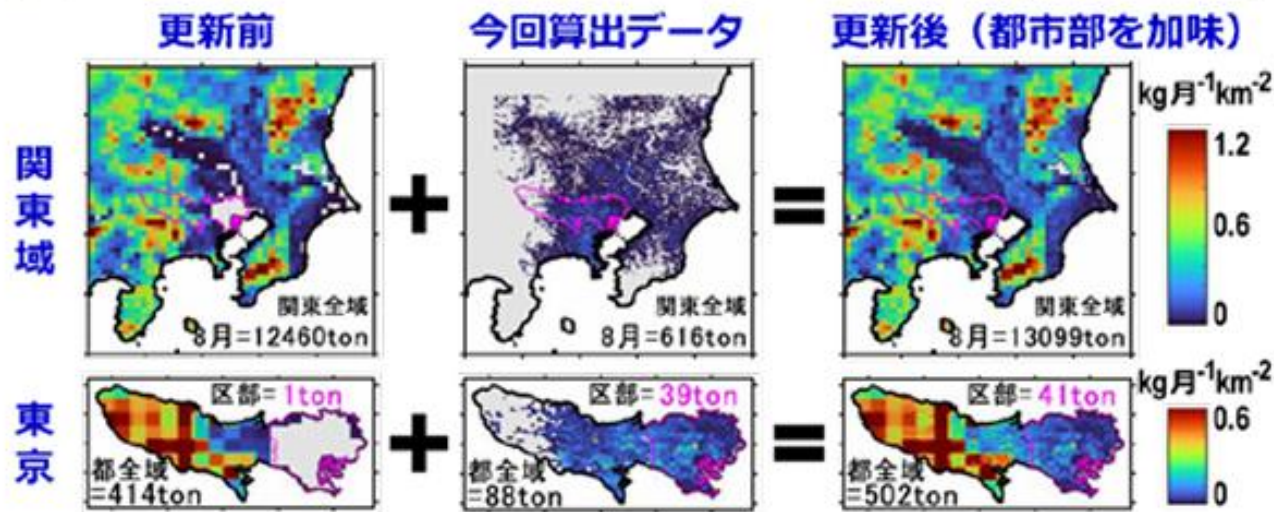
植物起源VOC(BVOC)の算定方法案

■ 東京都環境科学研究所の研究成果を活用

- ・ BVOC 放出量予測モデル (MEGAN) を用いて推計を実施
- ・ 森林樹木に加え、都市樹木の影響を考慮した首都圏市街地のBVOC放出量を算定予定

BVOC放出量の算出方法：放出量予測モデルに、基礎放出量分布を与えて算出

結果：既存のBVOC放出量データに市街地樹木を加味した結果(8月17日の例)



(引用元) 國分優孝・高橋和清・星 純也 「首都圏市街地の植物起源VOC放出量インベントリの精緻化に関する研究」 東京都環境科学研究所年報2022

主な委員意見と対応

■ インベントリ作成の際の整理事項について

No.	委員からの意見	都の対応（反映内容・対応方針）
1	NOxが減少し、週末にオキシダントが上昇するウィークエンドエフェクトを説明できるように、 <u>平日と休日の排出量の違いがわかる</u> とよい（森川委員）	VOC・NOx排出量について、平日・土曜日・休日の3区分で排出量を整理予定
2	VOCに関して、 <u>有害大気汚染物質に該当するものもあることから、そういった観点も含めたインベントリを作成する</u> とよい（熊谷委員）	有害大気汚染物質の観点を含め整理予定
3	業界細分化は、VOCだけでなく、NOx、PMも合わせてできるとよい（花岡委員）	VOCに加え、NOx、PMも民生部門を家庭、事務所別に細分化予定
4	VOCに関して東京都で独自に様々な取組・支援をしている。 <u>独自対策が排出量にどのような効果があったのか排出インベントリの中で評価できる</u> とよい（熊谷委員）	都の施策効果が反映できるよう、推計方法を検討予定
5	<u>固定発生源の排出量が減りきらない原因</u> として、概ね民生と工場と言われているが、その中でさらにどのようなものが原因になっているか（花岡委員）	過年度作成の排出インベントリ及び作成予定の2025年度排出インベントリより、原因が特定が可能か検討予定

大気汚染物質排出インベントリ作成方針

■総括

令和7年度第1回検討会の委員意見を踏まえ、2025インベントリで追加整理する事項の
変更点を赤字追記

項目	内容・目的
物質成分別	VOCの種類ごと（低沸点等）の寄与度を把握
	OFPを追加してOx生成への寄与を把握
	有害大気汚染物質の観点を追加
季節別	夏季にVOC排出が多い業態を把握
曜日別	曜日別にVOC、NOx排出量を把握
昼夜別	昼間にVOC排出が多い業態を把握
業界細分化	VOC、NOx、PMの民生部門を細分化（家庭、事業所）して把握
企業規模別	大企業、中小事業者等のVOC排出量を把握
民生品品目	使用実態に即して民生品を追加
自然発生	都市部の実態を反映した算定（BVOC）を検討
施策効果反映	都の独自対策の効果が反映されるような推計方法を検討

将来濃度推計に向けたシミュレーションについて

前回(2017年～2018年度)のシミュレーション解析の概要

■ 前回の検討会実施内容

大気中微小粒子状物質検討会

期間	2017～2018年度
目的	PM2.5、光化学オキシダントは環境基準未達のため削減対策を検討
解析手法	シミュレーションモデル※1 (気象モデル：WRF Ver. 3.8.1、大気質モデル：CMAQ Ver.5.1) レセプターモデル※2 (CMB)
解析内容	①シミュレーションの再現性評価 ②過去の施策評価 (2008年度と2015年度の比較) 広域的な影響も考慮した発生源別寄与割合の比較 ③将来予測 (2024年度、2030年度) ・発生源 (NOx、VOC、SOx等) の状況確認 ・将来濃度推計 (PM2.5、光化学オキシダント) ④対策の方向性検討

※1シミュレーションモデル:発生源からの汚染物質の輸送と変質をシミュレートして測定地点での汚染濃度を推計するモデル

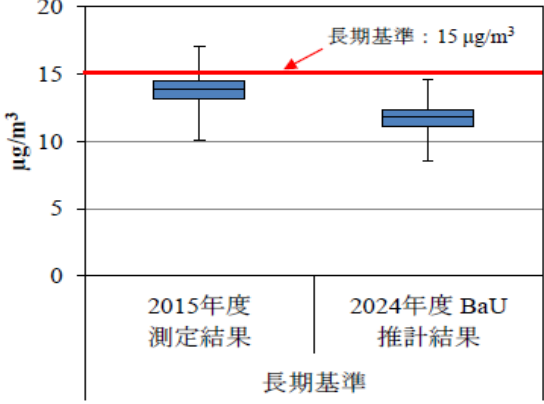
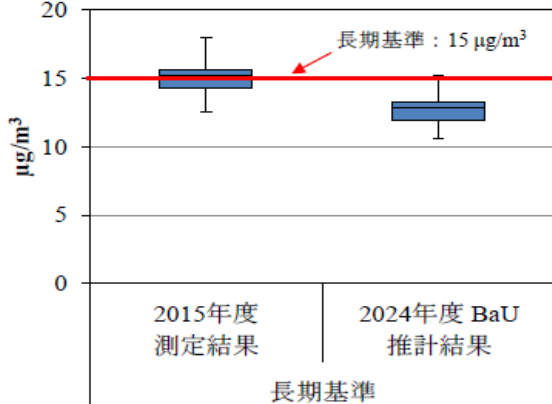
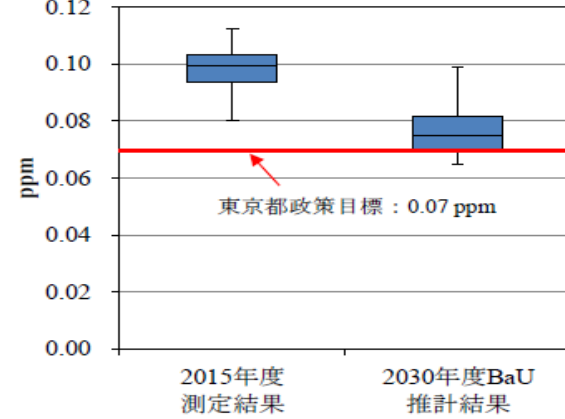
※2レセプターモデル:測定地点での測定結果から発生源寄与を推計するモデル

前回シミュレーションに基づく将来濃度推計(BAU)

【将来濃度推計条件】

気象条件：2015年度

排出インベントリ（推計結果）：PM2.5 2024年度、光化学オキシダント 2030年度

	PM2.5	光化学オキシダント
推計結果	一般局：年平均値11.7 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 自排局：年平均値12.8 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ⇒現行対策で2024年度政策目標※1達成見込み 一般局  自排局 	平均：約0.076ppm 達成局：41局中10局 ⇒現行対策で2030年度政策目標※2未達見込み 一般局 
	※1政策目標:長期基準15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、短期基準35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	※2政策目標:0.07ppm(東京都環境基本計画)
実績	一般局：年平均値8.8$\mu\text{g}/\text{m}^3$ (2024年度) 自排局：年平均値9.3$\mu\text{g}/\text{m}^3$ (2024年度)	年平均値：0.087ppm (2024年度)

前回解析結果と対策の方向性

解析結果

光化学オキシダント (関東全域)

東京都の寄与約 1 割に対して、
関東域が約 4～5 割（緑）、関
東以外（青）が約 4 割

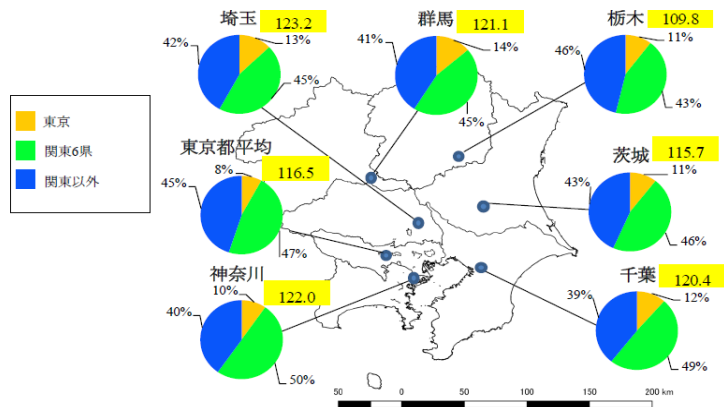


図 2015年度夏季高濃度日における関東域の
光化学オキシダント発生源寄与割合推計

光化学オキシダント (都内)

高濃度日は**自然発生源（黄）**、
VOC発生施設（赤）、**自動車
（青）**の寄与が大きい

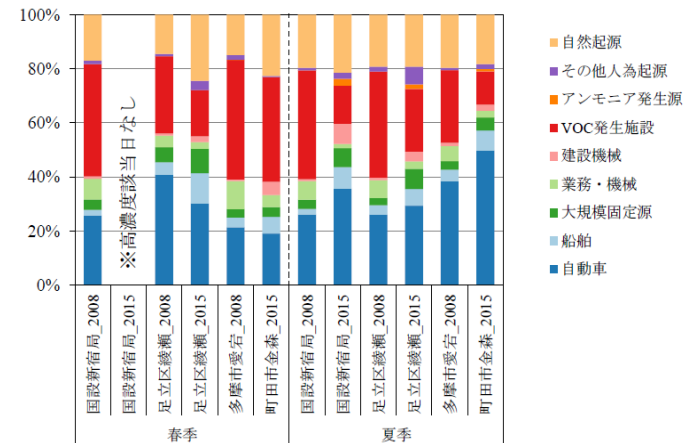


図 2008年度及び2015年度春夏季高濃度日
における光化学オキシダント発生源寄与割合

PM2.5

二次生成粒子（SO_x（橙）・
NO_x（黄）・VOC由来
（桃））の寄与は約 6～7 割

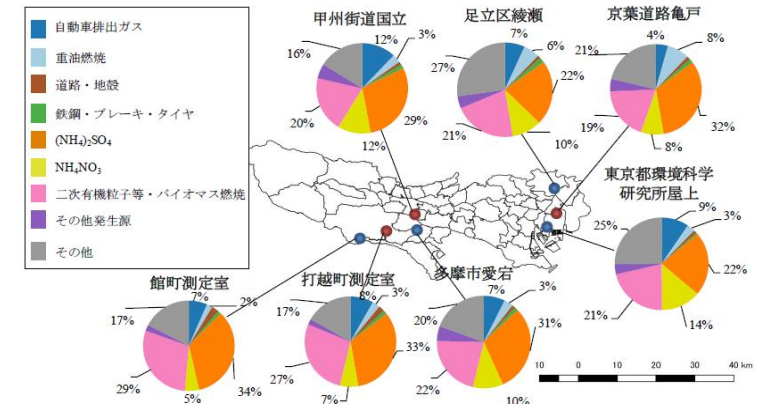


図 2015年度全季節平均における
発生源寄与割合推計結果

方向性

広域（関東・国外）連携の推進
が必要

発生源対策を推進し、NO_xと
VOCをバランスよく削減必要

二次生成対策（前駆物質削
減）が必要

前回の検討会以降(R1～)の都の施策と実績

開始	都の施策	概要	実績
H13 ～	自動車環境管理計画書制度 低公害・低燃費車の導入義務制度	【自動車環境管理計画書制度】 環境負荷低減に向けた事業者の自主的取組を推進するため、計画書・報告書の提出を義務付け 【低公害・低燃費車の導入義務制度】 第1～3期（H13～H27）：導入義務5% 第4期（H28～R3）：導入義務15% 第5期（R4～R8）：導入義務30% 第6期（R9～R13）について「その他報告事項」で紹介	■自動車環境管理計画書制度 （第4期から第5期のR6末まで） NOx排出量の推移 H28比 68.3%削減 PM排出量の推移 H28比 74.8%削減 ※平成28年度から令和6年度まで連続して実績報告書を提出している事業者の排出量を集計
H21 ～	低NOx・低CO ₂ 小規模燃焼機器認定制度	H21：認定要綱制定 H27：NOx基準について低NOxと超低NOxの2段階を設定（グレードA A、Aを設定） R3：水素燃料の蒸気ボイラーを認定対象に追加（グレードHを追加） R4：水素燃料の温水発生機を認定対象に追加 水素燃料の機器のNOx基準について、低NOxと超低NOxの2段階を設定（グレードH Hを追加） R7：水素燃料の冷温水発生機を認定対象に追加	■東京都低NOx・低CO₂小規模燃焼機器認定 機種数(千台) 年度

前回の検討会以降(R1～)の都の施策と実績

開始	都の施策	概要	実績
R1～	Clear Sky大気環境改善促進事業	大気環境改善に取り組む事業者を募集し、その取組を広く紹介 R6：大気環境に配慮した商品データベース「Clear Sky Navi」をオープン <u>「大気環境改善に向けた取組」で紹介</u>	■ Clear Skyサポーター数 対策に取り組む事業者等：342団体 関心のある都民：541名 ■ Clear Skyサポーターアワード開催：計2回 ■ Clear Sky Navi掲載件数：513件 (令和8年7月末時点)
R2～	環境配慮型VOC対策機器導入促進事業	給油中に押し出されたガソリンベーパーを吸引し、大気放出を抑制することができる給油機(stageⅡ)の導入費用を補助(補助率2/3、上限350万円/台)	■ 東京都e-AS※認定件数 59件(導入率約7%) (参考) 全国(都を除く)e-AS認定件数 682件(導入率約3%) (令和8年6月下旬実績) ※大気環境に配慮し、燃料蒸発ガスの排出を抑制する取り組みをしているガソリンスタンドを、環境省及び資源エネルギー庁ではe→ASとして認定します。
R4～	省エネ型VOC排出削減設備導入促進事業	工場内塗装、印刷、クリーニングについて、VOC対策設備やVOC削減装置付省エネ型空調・換気設備の導入費用を補助(補助率2/3、上限2,000万円/台)	- R4年度実績 14件 - R5年度実績 36件 - R6年度実績 39件 - R7年度実績 53件

シミュレーション調査の背景（今後検討事項）

■ 背景

- ・ PM2.5、光化学オキシダントは政策目標未達
- ・ **気候変動の影響を受けるあらゆる分野で、気候変動による将来の影響を考慮した取組がされている（環境基本計画）⇒ 気候変動の影響を考慮したシミュレーションは未実施**

都の政策目標	東京都環境基本計画、ゼロエミッション東京戦略	
	2030年、2035年	2050年のあるべき姿
微小粒子状物質（PM2.5）濃度	各測定局の年平均10 μ g/m ³ 以下を継続して達成	世界の大都市で最も水準の高い良好な大気環境を実現している
光化学オキシダント濃度	年間4番目に高い日最高8時間値の3年平均0.07ppm以下	

【実施内容】

- ① 2025年時点の現況把握
- ② 将来の気象条件、排出条件におけるPM、Ox濃度のシミュレーションを実施し、都の政策目標達成可能性を確認

シミュレーション結果を踏まえて対策のアップデートを検討

シミュレーション調査のロードマップ

現況評価：2015年度と2025年度を比較し、これまでの対策効果を評価

将来予測：2025年度を基準に、2035年度、2050年度の気象条件・排出条件でPM2.5・Oxを推計

	R 8 年度（2026年度）	R 9 年度（2027年度）	R 10 年度（2028年度）
現況 評価	排出インベントリの作成 ・2025年度版を作成 ・物質成分別、企業規模別、時間別（昼夜・曜日・季節）（第一回検討会で議論済）	現況の事業評価 ・シミュレーション実施（2015年度と2025年を比較） ・発生源別寄与割合、感度解析を実施	方向性検討 【左記検討で得たい成果】 ✓気象変化によるPM2.5、Oxへの影響把握 ✓重点分野・地域・時期の特定 ✓政策目標達成可能性評価 ✓効果的な対策の絞り込み ➡ 上記成果を受けて 政策の方向性決定
将来 予測	シミュレーションモデルの構築 ・気象条件のシミュレーション実施 ・2035年、2050年の気象条件を整理	将来濃度推計（BaU） ・2030年、2035年、2050年（BaU）のシミュレーション実施 ・発生源別寄与割合、感度解析を実施	
	将来シナリオの整理 ・2030年、2035年、2050年の排出条件を検討	将来濃度推計（追加対策込み） ・2035年、2050年（追加対策を加味）のシミュレーション実施 ・発生源別寄与割合、感度解析を実施	

赤枠：今回議論いただきたいポイント（詳細は次頁以降）

現況の事業評価の詳細

2015年度を対策評価の基準年（COVID-19による活動停滞の影響を排除）とし、2025年度の現況を評価

■ R 8 年度に次の取組を実施予定

- ・ 2025年度排出量インベントリ作成（R8インベントリ委託調査により実施中）

■ R 9 年度に次の取組を実施予定

- ・ 2015年度、2025年度の排出量インベントリを用いてシミュレーションを実施
- ・ 対策効果の評価
 - ① 2015年から2025年での、大気汚染物質に与える影響の大きい発生源の推移
 - ② 高濃度イベント時の影響が大きい発生源の状況
 - ③ 東京都、関東地域、その他地域が、都及び関東地域の大気汚染に与える影響

シミュレーションモデルの構築の詳細

2025年度を将来予測の基準年とし、政策目標設定年度である2035年度、2050年度のPM2.5質量濃度及び光化学オキシダント濃度の将来推計を実施

■ R 8 年度に次の取組を実施

- ① 将来の気象条件を整理（次頁で詳細説明）
- ② 将来の排出量削減シナリオを整理（2 頁後で詳細説明）

R 8 検討事項

R 8 実施事項

2035年度、2050年度
気象データ

2035年度、2050年度
排出量データ
(インベントリ調査)

大気質モデル
(CMAQ)

最終出力

2035年度、2050年度
・ PM2.5質量濃度
・ 光化学オキシダント濃度

将来の気象条件を整理

■ 気象条件の検討

- ・ 気候変動シナリオはIPCCに基づくSSP RCPシナリオを使用
- ・ 3シナリオ（SSP1-2.6、SSP2-4.5、SSP3-7.0）のうち一部を気象モデル（WRF）に入力し、2035年度、2050年度の気象条件を整理予定

シナリオ※	2021– 2040 (°C)	2041– 2060 (°C)	2081– 2100 (°C)	メリット	デメリット
SSP5-8.5	1.6	2.4	4.4	感度分析や適応策検討に有効	・ IPCC第7次報告書では除外予定 ・ ゼロエミッション東京の将来像と乖離
SSP3-7.0	1.5	2.1	3.6	感度分析や適応策検討に有効	ゼロエミッション東京の将来像と乖離
SSP2-4.5	1.5	2.0	2.7	ベースラインケースとして利用	高温化リスク評価不適
SSP1-2.6	1.5	1.7	1.8	パリ協定2℃目標と整合	高温化リスク評価不適
SSP1-1.9	1.5	1.6	1.4	・ パリ協定1.5℃努力目標と整合 ・ ゼロエミッション東京の将来像に近い	・ IPCC第7次報告書では除外予定 ・ 高温化リスク評価不適

将来シナリオの整理の詳細

■ 将来の排出量削減シナリオを整理

- ・ 対象はPM、NOx、VOC、SOx、NH3の排出量
- ・ 既定対策の延長線であるBaUシナリオのほかに、追加対策を組み入れた排出量推計を実施
- ・ 追加対策は、エネルギー見通し、新技術による排出抑制見通し等を基に発生源ごとの削減シナリオの考え方を整理し推計

排出量（2030、2035、2050年度）

R 8 実施事項

$$= \Sigma (\text{発生源別排出量 (2025年度)} \times (1 - \text{発生源別削減率 (2030、2035、2050年度)}))$$

項目		将来シナリオの検討案
排出条件	国外排出インベントリ	基準年に固定 (今後の将来情勢予測には不確実性が大きく見込まれることから)
	国内排出インベントリ	【既定対策 (BaU)】 既定の対策や統計情報の経年変化等を基に推計
	東京都内インベントリ	【既定対策 (BaU) + 追加対策】 エネルギー見通し、新技術による排出抑制見通し等を基に推計

将来シナリオの解析方法案

■ 解析方法

2025年度を将来予測の基準年度とし、気候変動による大気汚染物質に与える気象変化の影響と対策実施による改善効果をそれぞれ評価

例：2035年の場合

気象影響：CとE、気象影響時の追加削減対策効果：EとG

		気象条件	排出量
	A 基準	2025年度	2025年度
	B 気候変動未反映 (BaU)	2025年度	2030年度推計値 (既定対策)
	C 気候変動未反映 (BaU)	2025年度	2035年度推計値 (既定対策)
	D 気候変動未反映 (BaU)	2025年度	2050年度推計値 (既定対策)
2035年 気象影響	E 気候変動加味 (BaU)	SSPシナリオ (2035年度)	2035年度推計値 (既定対策)
	F 気候変動加味 (BaU)	SSPシナリオ (2050年度)	2050年度推計値 (既定対策)
2035年 対策効果	G 気候変動と追加対策加味	SSPシナリオ (2035年度)	2035年度推計値 (既定対策 + 追加対策)
	H 気候変動と追加対策加味	SSPシナリオ (2050年度)	2050年度推計値 (既定対策 + 追加対策)

議論テーマ①

議論の視点

■ 将来濃度推計に向けた、シミュレーション調査について
ご議論いただきたい

基準年の考え方 / 気象変動シナリオの設定 / 将来排出量シナリオの考え方 /
対策効果評価の進め方 / 等

大気環境改善に向けた取組について (大気環境に関する啓発、情報発信)

令和7年度第1回検討会の振り返り

■情報発信について

○VOC対策の認知度向上に向けて、普及啓発事業に力を入れたい（速水委員）

○都民が、大気汚染が重要だと認識して、それに対して取り組んでいくという動きが重要。

都民に大気汚染問題の重要性を分かってもらうために、どう都民へ周知していくかについて検討した上で、ツール（ローコストセンサー）を活用していくことが重要。（茶谷委員）

○行動変容をとる時に、自分ごととして捉えないと、人は行動しない。

健康に関する情報は、自分ごととして捉える情報となる。

健康のリスクについて、コミュニケーションの仕方に注意しながら、情報発信を実施する必要がある。（花岡委員）

○健康影響はあると煽ることが本当に良いのかという部分はある。

一方で、大気汚染からの健康影響はあるため、情報提供のあり方について検討したい。（上田委員）

大気環境に関する普及啓発の取組



- 都民や事業者の大気環境に関する理解を深め、改善に向けた自主的な行動につなげることを目的として普及啓発を実施(Clear Sky事業)

①サポーター制度

- 対策に取り組む企業等：342団体
- 企業を応援する都民：541名
(R8年7月末現在)
- HP等でサポーター企業を紹介



②都民の大気環境への関心の醸成

- Instagramによる発信
 - ・ 都民参加型投稿 (週1回)
 - ・ 大気環境情報の発信 (月2回)
- フォトコンテスト
大気環境に関する写真とメッセージの投稿を通して、都民への関心を醸成
R8テーマ：「東京の空×〇〇」



③イベント・サポーターアワード

- Clear Skyサポーターアワード
 - ・ 都民投票によるアワードを開催し、サポーター企業の優良取組を発信・表彰
 - ・ SNS広告により投票促進に加え、アワード開催後も優良取組を紹介する動画・広告による発信を実施



- サイエンスライブショー、クイズ
テーマ：大気環境への理解促進
投票促進

【出展】

- 区市主催環境フェア
- エコプロ



※ひのきのコースターお絵描き体験等

(参考)大気汚染に関する情報の伝え方の事例

Instagramからの投稿内容(例)



＼ 真夏日に知っておきたい! 「光化学スモッグ」のハナシ 🌿 /

写真2枚目を見てみてください👁️

実は、どちらも同じ場所から撮影された東京の景色なのです。

右側の写真は、空が白くモヤがかかって遠くのビルが見えなくなっていますよね。

今回は、この「光化学スモッグ」の基本知識と、みんなの健康 & 東京の空を守るための身近な対策をご紹介します💡

—【ここがポイント!】—

💡 **光化学スモッグってなに? **

工場の煙や車の排気ガス(NO_x や SO_x)、塗料や接着剤などの日用品に含まれる揮発する成分が、強い太陽の光(紫外線)を浴びて光化学オキシダントが作られます。

光化学オキシダントが高濃度になると光化学スモッグが発生!

空気が白くモヤがかかったり、目がチカチカしたり、のどが痛くなったりすることがあります。

🏠 **もし注意報が出たら? ** ※注意報は「東京都 光化学スモッグ情報」で検索 🔍

- ・屋外での激しい運動は避ける
- ・なるべく涼しい屋内(外気が入らない部屋)へ入る

東京の美しい空をキレイに保ち、みんなの健康を守るために、私たちが普段の生活の中でできる身近なアクションもあります💡

(参考)大気汚染に関する情報の伝え方の事例

Instagram企画投稿 今後の発信内容案(月2回程度)

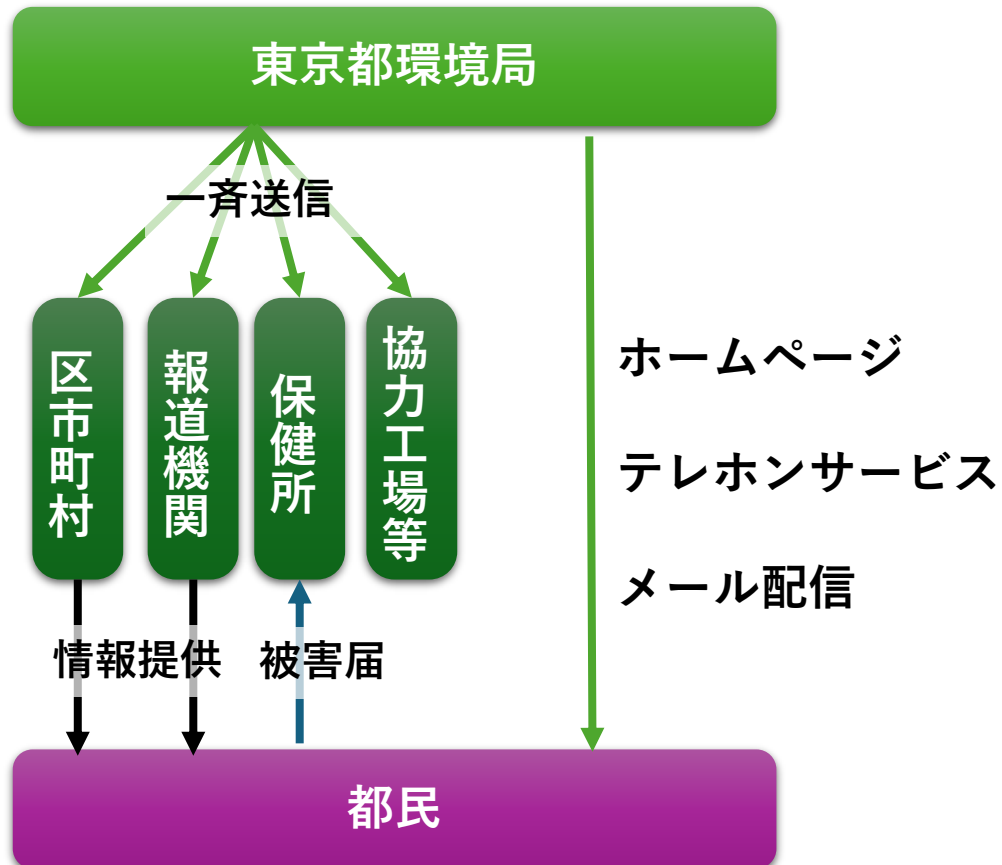
7月(開始)	8月	9月		10月
・夏の空と光化学スモッグ	・東京の空はなぜここまでキレイになった?(豆知識) ・フォトコンテスト過去受賞作品紹介 ・測定局(身近な場所紹介)	・測定局(測定内容) ・秋の空紹介		・東京湾エリアの空の変化(昔と今の空気汚染状況の比較) ・アワード過去グランプリ企業の取組紹介
11月	12月	1月	2月	3月
・アワード参加企業の取組紹介(1回目) ・アワード参加企業の取組紹介(2回目)	・季節ごとの富士山の見え方(都庁の富士山カメラ紹介含む) ・冬に富士山がよく見える理由	未定		

大気情報の発信の取組

【現状】

● 光化学スモッグ注意報

注意報等発令時の連絡体制

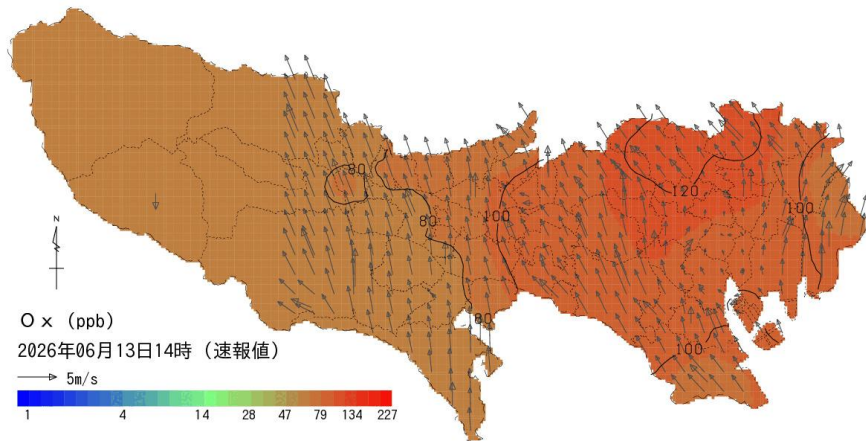


	学校情報	注意報	警報
発令基準 オキシダント濃度	0.10ppm以上	0.12ppm以上	0.24ppm以上

大気情報の発信の取組

【現状】

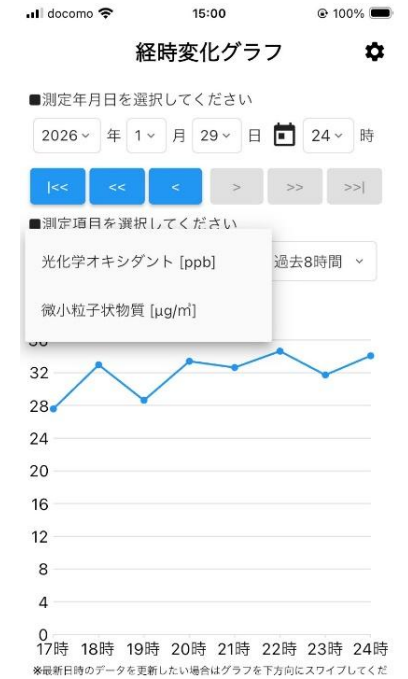
- 大気環境に関するデータを各種媒体で発信・提供
 - ・ リアルタイム時報・大気汚染地図情報
 - ・ 富士山カメラ
 - ・ 大気情報提供アプリ「TOKYO大気情報」（PM2.5及びOx情報の提供）
 - ・ オープンデータカタログサイトでのデータ提供



大気汚染地図情報



富士山カメラ



大気情報提供アプリ
「TOKYO大気情報」

大気情報の発信

●こども都庁モニターアンケート（令和8年度第1回目）

東京の大気への関心度や大気情報に関するニーズ等を調査

対象：未就学児保護者、小学生、中学生、高校生 約1200人

身近な場所で大気の状態がわかるようになったら、どのように思いますか

(n=1,164)

➤大気の状態を調べることはあるか、何を利用して調べるかに対し、

「利用したことはない」が約43%と最も多い

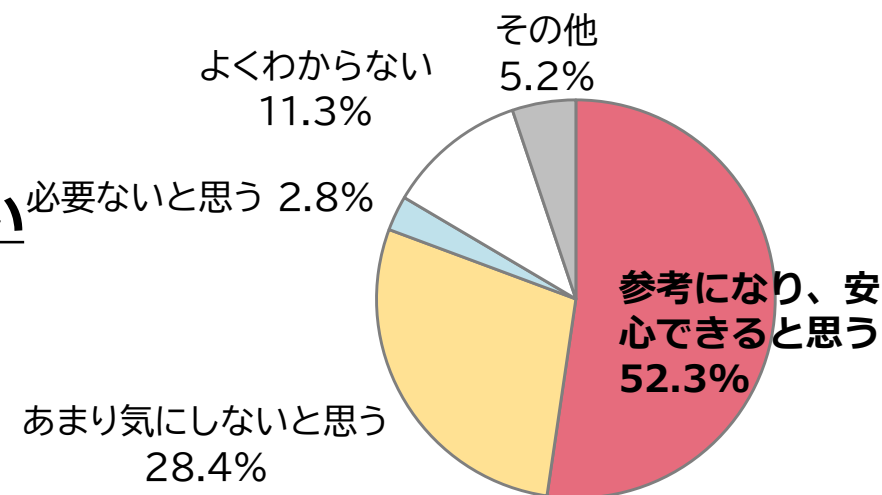
➤身近な場所で大気の状態がわかるようになったら、

「参考になり、安心できると思う」が約52%と最も多い

➤「測定値の表す意味」「何を気にすれば良いのか」

「天気予報のような発信」「直感的にわかる表示」

「基準値との比較」などを求める意見が多数



大気情報の発信の取組

環境基準（短期）
日平均 $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$

【事例】PM2.5高濃度事象への対応

- R7年7月6日夕方から都内の大気中のPM2.5濃度が上昇
※通常 $10 \sim 20 \mu\text{g}/\text{m}^3 \Rightarrow 40 \sim 50 \mu\text{g}/\text{m}^3$



- 翌7日から都民や報道機関等から問い合わせあり



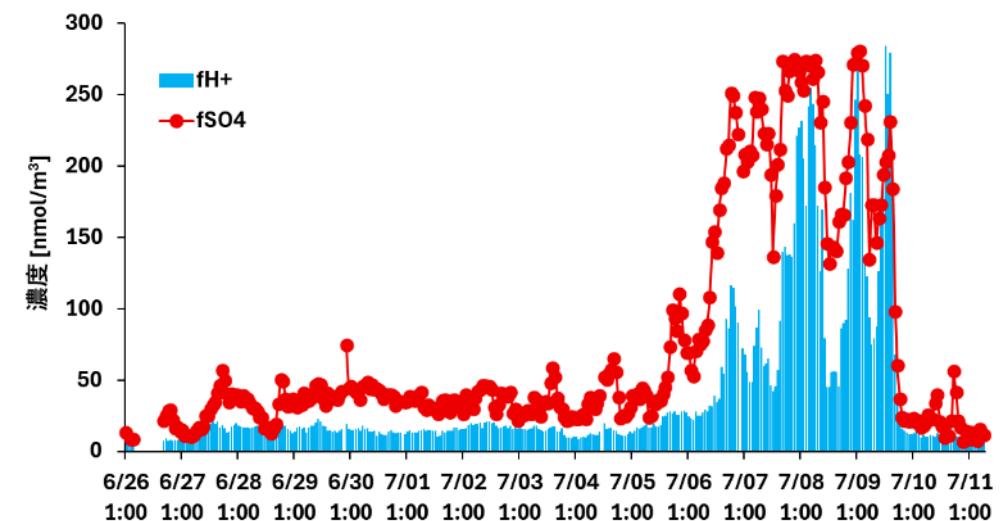
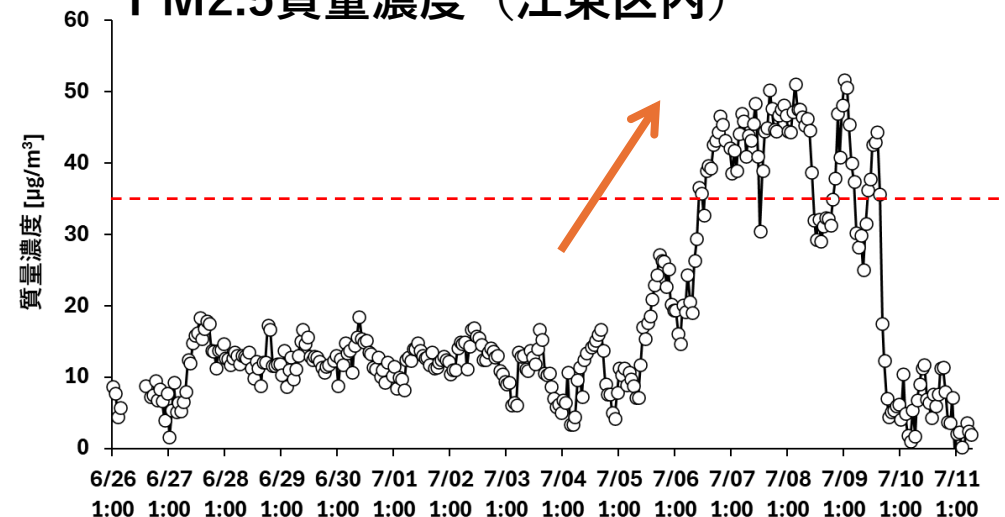
- 都環境科学研究所にてデータを解析
 $\Rightarrow$ 成分分析の結果、火山由来成分が高濃度で検出

九州地方の噴火の影響の可能性を示唆



- 解析結果や注意点をまとめて都ホームページ掲載
 - ・濃度の推移・原因
 - ・高濃度時の対応
 - ・都内の大気汚染状況の発信サイトの紹介

PM2.5質量濃度（江東区内）



大気情報の発信の取組

【現状・課題】

- 注意報・高濃度時等の注意喚起は実施
- データ提供の手段は複数用意 ⇒ 関係者・関心のある方には充実一方で、
- 大気汚染のデータは一般の方にとっては馴染みにくい部分もあり
- これまで都の大気環境がどう改善してきたのか、健康や生活にどう影響するか、各自がどう対応したらよいのかといった情報発信は十分とは言えない。

■ 都民にとってわかりやすく、身近で利用しやすい大気情報の発信が課題

議論テーマ②

議論の視点

■ 大気情報に関する情報発信・普及啓発について ご議論いただきたい

(わかりやすくより身近で利用しやすい大気情報の発信の推進、都民が自分事として捉える工夫)

その他

自動車環境管理計画書制度及び低公害・低燃費車の導入義務制度 次期(令和9～13年度)改正概要

自動車環境管理計画書制度

- 環境負荷低減に向けた事業者の自主的取組を推進するため、計画書・報告書の提出を義務付け
対象：30台以上の自動車を都内（島しょ除く）で使用する事業者（特定事業者:約1,500者）
- 改正概要
 - ▶ **計画書・報告書の作成・提出に係る負担感の軽減**
 - ▶ **ステークホルダーから評価される仕組みを構築**（トップランナーの表彰・公表 取組事例の見える化（事例集の作成等））
 - ▶ **自動車使用合理化の手法（推奨メニュー）をアップデート**（ZEVへの転換、ラストワンマイルの電動化等を追加）

低公害・低燃費車の導入義務制度

- 自動車をもたらす環境負荷低減のため、事業者到低公害・低燃費車の一定割合導入を義務付け
対象：200台以上の自動車を都内（島しょ除く）で使用する事業者（特定事業者:約170者）
- 改正概要
 - ▶ 省エネ法の最新の燃費基準や市販車の性能等を踏まえ、**特定低公害・低燃費車の要件を見直し**
 - ▶ **導入義務率及び換算率の見直し**

	特定低公害・低燃費車	乗用車における非ガソリン車
達成期限	令和14（2032）年3月31日まで	
義務内容	▶ 使用台数に占める特定低公害・低燃費車の導入義務率 現行：30% ➡ 見直し案：40%	▶ 使用台数のうち乗用車に占める非ガソリン車の導入義務率 現行：20% ➡ 見直し案：50% ▶ EV及びFCVの換算率 現行：1台を2台 ➡ 見直し案：1台を3台